校 内 研 修 計 画

甲州市立東雲小学校

１．学校課題

　　　本校の児童は明るく素直で，友達と仲良く協力して活動したり，進んで係や委員会の仕事に取り組んだりすることができる。縦割り活動をはじめとする児童会活動では，日常的に上級生が下級生の面倒を見る姿が見られ，助け合う思いやりの心が次の学年に引き継がれている。休み時間は元気になわとびやボール遊びを楽しみ，学年関係なく子供たち同士が自然と教え合い，「できるようになりたい。」という意欲的な表情は，生き生きと輝いている。

学習では，課題に対して意欲的に取り組み，よく考えて学ぶ様子が見られる。各教科の授業や家庭学習で，漢字や計算等の基礎学力の定着を図る取り組みを行い，どの子も前向きに一生懸命取り組んでいる。しかし一方で学習の場面で教師の支援が必要な児童や，自己肯定感の低い児童もいる。そのような児童の実態を踏まえ，学ぶ意欲をもって学習に取り組めるように，安心して何でも伝え合える学習集団をつくっていく必要がある。令和６年度山梨県学校指導重点「学級経営の充実」の中にある「教師と児童生徒との信頼関係及び児童生徒相互のよりよい人間関係を育てる土台」となる学級集団づくり，そして「甲州市『夢をかなえる学び』のプロジェクト」事業の「主体的・対話的で深い学び」を目指し，WEBQU検査の結果や分析等を活用しながら一人ひとりの良さや可能性を生かせる学級集団づくりに取り組んでいきたい。

２．研究主題

　　　 「自ら考え，よりよく生きようとする心豊かな児童の育成」

　　　　　　　　　　　　　～ 対話を通して，自己の考えを深める道徳の授業づくりを通して ～

３．主題設定の理由

　　　本校の学校教育目標である「自ら学び　心豊かに生きる子どもの育成」の具体策の一つとして，「豊かな心を育む道徳教育を充実させる」とある。人工知能（AI）やSNS等で世界中誰とでもつながれる社会の中では便利である一方，事実のみで判断されることが増えていくであろう。そんな状況だからこそ，心を含めた人間そのものを理解できる「豊かな心」が，これまで以上に大事になってくると思われる。また多様な価値観を持つ人々と関わり合いながら，自他を認め合える心を育てていくことも必要となっていく。予測困難な社会を生き抜くためには，子供たちが自ら考え，判断し，行動して「よりよく生きようとする」資質・能力が求められ，道徳教育の果たす役割はより一層大きくなっていくことが考えられる。

　　　本校は令和４年度から３年間の道徳教育推進校の指定となった。今年度は３年目の最終年の研究となる。研究の方向性については２年間積み上げた研究を継続して行っていく。２年間の道徳教育研究の成果は，友達と対話することが日常的な学習活動になったこと，そしてICTを活用することで全員が考えを表出して対話に参加できる授業を展開できるようになったことである。自分事として考えることを意識し，多様な考えを生み出す発問を投げかけることで，充実した「対話」ができるようになり，子供たちの考えの深まりにつなげるための手立てを，効果的に実践することができた。課題は，対話の後の活動についてである。自己の考えの深まりを促すような「問い返し」の難しさ，話し合った内容や考えの変容の表出の仕方，まとめ方について課題を感じている。

今年度は子供たちの心を揺さぶるような対話後の効果的な「問い返し」の方法について，研究を深めていきたいと考える。対話することを通して，再度自己を振り返る活動の充実を図っていく。例えば，自分の考えの良さに気づく，友達と自分の考えの違いに気づく，自分の考えが変わることに気づく等，自分なりの納得解を持つことができる子供の姿を目指していきたい。１時間の授業を通しての子供の変容，そして学校教育全体を通した長いスパンでの子供の変容を具体的にイメージしながら，問い返しやまとめ方の工夫と手立てを考えていきたい。「一枚ポートフォリオ」や，５段階ルーブリック「心のものさし」を効果的に活用しながら，終末での考えの深まりを促していく。

４．研究の具体的内容と方法

|  |  |
| --- | --- |
| （１）道徳科における「対話」を意識した授業づくり | ・講師を招いての学習会（理論研究）　　 ・研究授業，一人一実践  ・教材教具，ICT端末の効果的な活用方法について  ・「１枚ポートフォリオ」，「心のものさし」の活用 |
| （２）親和的な学級集団づくりの充実 | ・各教科，行事，特別活動，総合的な学習の時間との関り |
| （３）児童の実態把握 | ・道徳アンケート（６月と１２月，年２回実施）  ・WEBQU検査の検査結果分析 |
| （４）学校教育全体における  道徳教育の推進 | ・児童会との連携（あいさつ，無言清掃，縦割り活動等）  ・自然の杜の活用（自然愛護） |
| （５）「夢をかなえる学び」のプロジェクトとの関わり | ・WEBQU検査，学級集団づくりアセスメント・対応策シート  　・「甲州市ティーチャーズノート」の活用　　 ・家庭学習の充実 |
| （６）家庭，地域，中学校ブロックとの  連携，交流 | ・授業参観（年１回道徳の授業実施）　　 ・学校，学年だよりの活用  ・中学校ブロックでの連携，交流 |

５．年 間 校 内 研 修 計 画

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 実施月日 | | 研　修　内　容　（領域） | | 担当・学年 | T･C要請 |
| ４ | ４ | 第　１回 | 研究の方向性について | 研究主任 |  |
| １７ | 第　２回 | 校内研修計画について　授業者の決定  学習会「東雲小　ICT虎の巻」 | 研究主任  情報主任 |  |
| ５ | ２２ | 第　３回 | 学習会 | 研究主任 | 〇 |
| ２９ | 第　４回 | Figjamオンライン研修会 | 研究主任 |  |
| ６ | ５ | 第　５回 | WEBQU結果分析　アセスメント・対応策シートの作成 | 各学年 |  |
| ７ | ３ | 第　６回 | 道徳アンケート結果分析　研究授業の方向性 | 研究主任 |  |
| ８ | １９ | 第　７回 | 教育課程還流報告　部会研究①授業案検討 | 部会長 |  |
| ９ | １１ | 第　８回 | 部会研究②授業案検討 | 部会長 |  |
| ２５ | 第　９回 | 部会研究③授業案検討 | 部会長 |  |
| １０ | ３０ | 第１０回 | 全体授業案検討 | 授業者 | 〇 |
| １１ | ６ | 第１１回 | WEBQU結果分析　アセスメント・対応策シートの作成 | 各学年 |  |
| １３ | 第１２回 | 部会研究④授業案検討 | 部会長 |  |
| ２１ | 第１３回 | 公開研究授業　前日準備 | 研究主任 |  |
| ２２ | 第１４回 | 公開授業研究会 | 授業者 | 〇 |
| １２ | １１ | 第１５回 | 道徳アンケート結果分析　研究部会の成果と課題について | 研究主任 |  |
| １ | ２２ | 第１６回 | 研究の成果と課題について　来年度の方向性について | 研究主任 |  |
| ２ | ５ | 第１７回 | 研究紀要原稿作成（個人研究） | 各学年 |  |
| ２ | ２６ | 第１８回 | 研究紀要原稿作成（個人研究） | 各学年 |  |
| ３ | ５ | 第１９回 | 研究紀要の作成 | 研究主任 |  |

（研究主任　菱澤　里美）